

令和5年第5回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和5年5月8日（月）

午後1時30分開会

第2庁舎8階 801会議室

日程	議 題
第1	会議録署名委員の指名
第2	議案第25号 小金井市学校運営協議会委員の解嘱について
第3	議案第26号 小金井市学校運営協議会委員の委嘱について
第4	報 告 事 項
	1 令和5年第1回小金井市議会定例会について
	2 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について
	3 文部科学省「次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」について
	4 小金井市行財政改革2025に基づく図書館緑分室の委託化に係る答申について
	5 小金井市行財政改革2025及び小金井市公民館中長期計画に基づく公民館緑分館の委託化に係る答申について
	6 その他
7 今後の日程	

議案第25号

小金井市学校運営協議会委員の解嘱について

小金井市学校運営協議会に関する規則第12条の規定に基づき、小金井市学校運営協議会委員を別紙のとおり解嘱する。

令和5年5月8日提出

小金井市教育委員会
教育長 大熊 雅士

(提案理由)

小金井第一中学校において、学校運営協議会委員の解嘱手続きを行う必要が生じたため、本案を提出するものであります。

小金井第一中学校運営協議会解嘱者一覧

ふりがな 氏 名	所属・役職等	解嘱理由
ながお 長尾 ただのり 忠 範	前PTA会長	本人からの申し出による

議案第26号

小金井市学校運営協議会委員の委嘱について

小金井市学校運営協議会に関する規則第8条の規定に基づき、小金井市学校運営協議会委員を別紙のとおり委嘱する。

令和5年5月8日提出

小金井市教育委員会

教育長 大熊 雅士

(提案理由)

小金井第一中学校の欠員に伴う補充並びに小金井第二小学校及び東中学校の委員の追加に伴い、学校運営協議会委員の委嘱手続きを行う必要が生じたことから、本案を提出するものであります。

小金井第二小学校学校運営協議会委員名簿

任 期 令和5年 5月 9日から
令和7年 3月31日まで

ふりがな 氏 名	所属・役職等
かどわき としたね 門脇 利種	小金井第一中学校・校長

小金井第一中学校学校運営協議会委員名簿

任 期 令和5年 5月 9日から
令和6年 3月31日まで

ふりがな 氏 名	所属・役職等
かじやま ゆみこ 梶山 由美子	小金井第一中PTA会長

東中学校学校運営協議会委員名簿

任 期 令和5年 5月 9日から
令和7年 3月31日まで

ふりがな 氏 名	所属・役職等
たかはし まゆ 高橋 真由	東中PTA代表

令和5年第1回小金井市議会定例会（教育委員会関係）

学校教育部

NO	質問議員	会派	表題及び質問の具体的内容等
1	小林 正樹 議員	小金井市 議会公明 党	英語教育の充実でグローバル人材育成を ①市内小中学校の英語教育の実態について問う。②「伝わる」感動が得られる「東京グローバルゲートウェイ」を活用しないか。③「地域未来塾」を活用した英語カフェなどをすべての学校で行わないか。④ALT（外国語指導助手）などの協力により「グローバルコミュニケーションデー」を開催しないか。
2	遠藤 百合子 議員	自由民主 党・信賴 の小金井	成人が20歳から18歳に引き下げられた ①消費者契約法では18歳で契約が可能となる。学校教育や経済課における消費者教育等の意識啓発が必要であるが対応は。 コロナ対応が2類から5類に変更される見通しとなった ①学校教育におけるマスク着用等の方針を問う。
3	宮下 誠 議員	小金井市 議会公明 党	多文化共生社会の推進を ①日本語を母国語としない外国人の子どもやその保護者の困りごとを把握し、適切な支援へ結び付けるコーディネーターを配置しないか。
4	渡辺 ふき子 議員	小金井市 議会公明 党	わが市におけるインクルーシブ教育の実現を目指して ①多様な学びの確保で子どもたちの可能性を引き出す教育を・特別支援教育の現状、受け入れ体制は十分か・情緒障害児固定学級の設置が必要ではないか。②医療的ケア児の学びの確保は進んでいるか・訪問看護等の環境整備について。
5	森戸 よう子 議員	日本共産 党小金井 市議団	学校給食の無償化を実施しないか ①学校給食法についての文科省の見解について。②国や東京都に対し、支援を求めているかないか。
6	片山 かおる 議員	子どもの 権利を守 る会	主権者教育の推進について ①議会運営委員会での議会改革の中で、高校生への主権者教育が検討されてきた。市内にある高校1校で特別授業を始めて実施された。これまで市立小中学校での主権者教育は敬遠されていたが、今後、議会も関わる主権者教育を検討しないか。
7	河野 麻美 議員	自由民主 党・信賴 の小金井	地場産野菜の更なる活用

生涯学習部

NO	質問議員	会派	表題及び質問の具体的内容等
1	村山 ひでき 議員	みらいの こがねい	<p>名勝 小金井桜の復活に向けて</p> <p>①東京都立農業高校との連携事業と協定について。②名勝指定100周年記念事業の進捗状況は。</p>
2	小林 正樹 議員	小金井市 議会公明 党	<p>英語教育の充実でグローバル人材育成を</p> <p>①「地域未来塾」を活用した英語カフェなどをすべての学校で行わないか。</p>
3	沖浦 あつし 議員	みらいの こがねい	<p>「エコバック」作りで、マイバッグ促進と環境啓発をしよう</p> <p>①図書館で「エコバック」を利用できるようにしないか。</p> <p>スポーツ環境整備について</p> <p>①屋外グラウンド整備（上水公園運動施設）の検討状況。②その他のグラウンド整備できそうな場所の実現性を問う。</p>
4	水谷 たかこ 議員	小金井を おもしろ くする会	<p>放課後の子どもの居場所について</p> <p>①今年度、数校の放課後子ども教室が実施したアンケート結果をどのように分析しているか。②子どもが安心して過ごせる放課後の居場所を増やすために、学童保育・放課後子ども教室以外の施設や団体と、どのような取り組みをしてきたのか。今後の方針は。</p>
5	水上 洋志 議員	日本共産 党小金井 市議団	<p>図書館の施設整備について問う</p> <p>①施設整備の方針はどうなっているのか。</p> <p>②図書館の新たな施設整備を行なうことを求める。</p>
6	坂井 えつ子 議員	緑・つな がる小金 井	<p>“はけと野川を壊す道路”はいらない！</p> <p>①小金井市の宝であるはけと野川の自然と文化について、市民のさらなる周知をしよう。市主催での講座を企画しないか。</p>

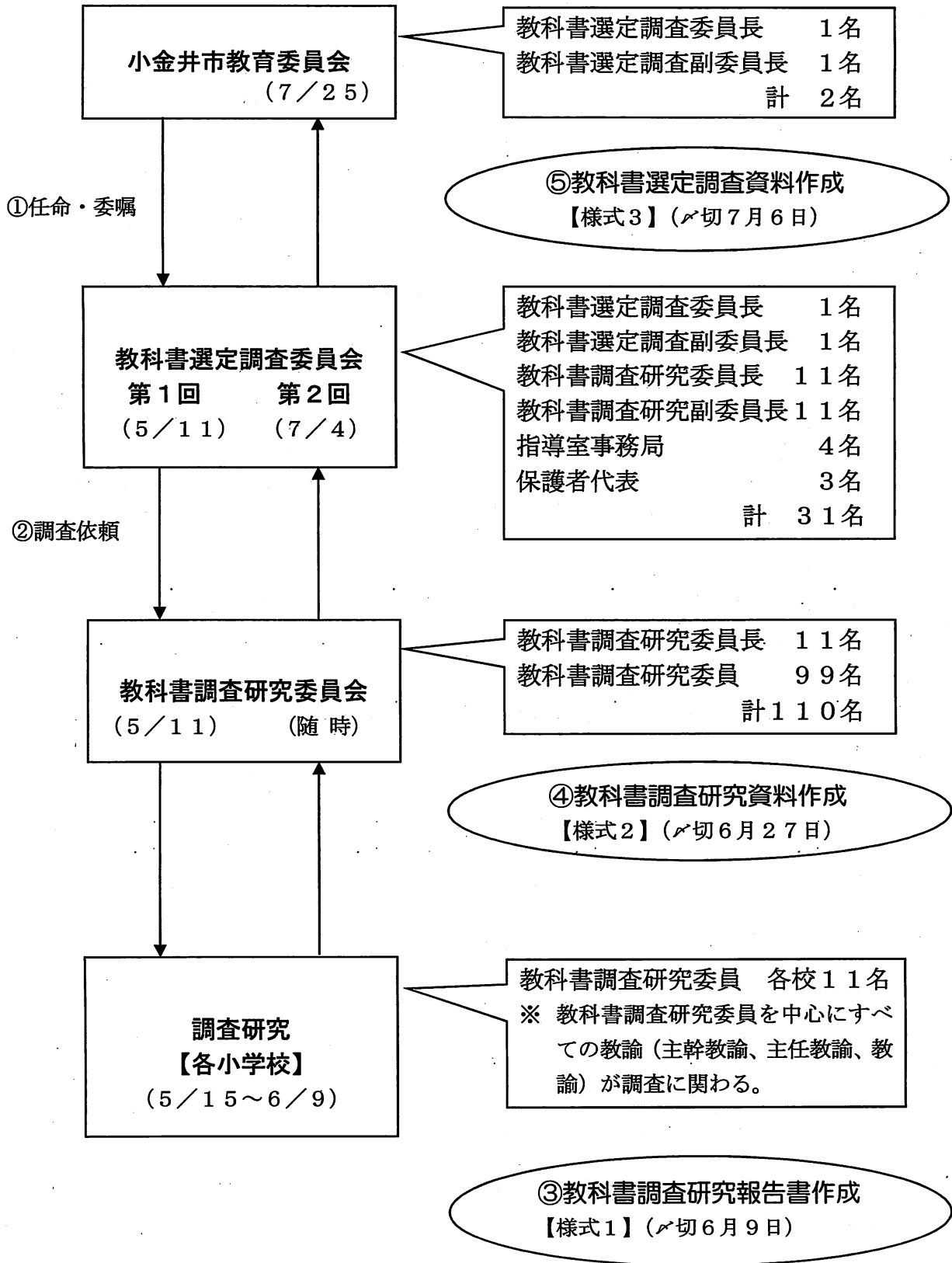
令和5年5月8日

学校教育部指導室

令和6年度使用小学校教科用図書採択にかかる主な予定

令和5年	内 容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○8日 教育委員会において、教科書選定に関する日程の概略報告 ○教科書採択にかかわる事務・日程等についての理解
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の趣旨の理解 ○下旬 教育委員へ見本本の配布 ○各自で見本本の調査研究（※随時、個々に指導主事に質問）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○上旬 教科書選定調査資料の配布 ○11日 教育委員会において、令和6年度使用小学校教科書の採択方針等の概要報告 ○各自で教科書選定調査資料の研究（※随時、個々に指導主事に質問） ○25日 教科書採択のための教育委員会

【 各委員会の関係図 】



令和4年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業（実証地域事業）

【研究テーマ】
不登校対策としての『教育メタバースの効果と課題』と今後の可能性を検証

<委託業務成果報告書>

2023年3月31日

富士ソフト株式会社

令和4年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業（実証地域事業）

【研究テーマ】不登校対策としての『教育メタバースの効果と課題』と今後の可能性を検証

< 委託業務成果報告書 >

- 1. 取組概要 . . . p2
- 2. 課題解決への先端技術の活用 . . . p6
- 3. 先端技術を活用した効果 . . . p12
- 4. まとめ . . . p25
- 5. APPENDIX . . . p27

1. 取組概要

【研究テーマ】 不登校対策としての『教育メタバースの効果と課題』と今後の可能性を検証

【対象者（対象校）】

○すべての小金井市立小学校（市内児童数：6,267人）

→うち実証対象児童数：1年生15人、2年生15人、3年生14人、4年生18人、5年生23人、6年生36人 **計121名**


○すべての小金井市立中学校（市内生徒数：3,777人）

→うち実証対象生徒数：1年生22人、2年生34人、3年生38人 **計94名**

課題設定

不登校・長期欠席者は全国的な課題

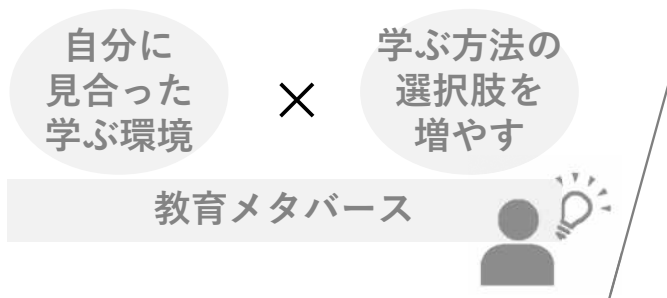
行政側は対面授業と同等の教育機会を保障する必要があるが…



子どもが
「授業を受けられる環境」と
「体制の構築」に
有効な方策が確立されていない


課題解決の仮説

「1人1台端末」と
「教育メタバース」を活用すれば…
教育機会を創出できる可能性がある。



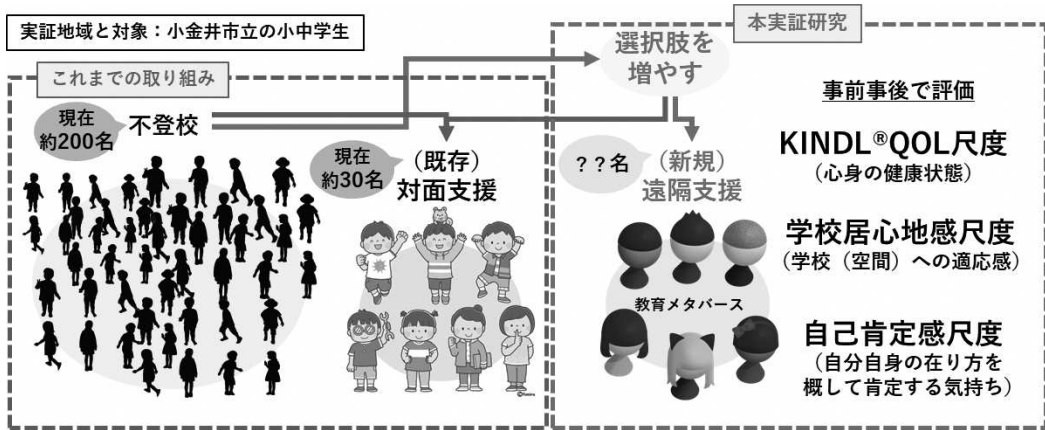
実証研究の内容

学校に通えなくなってしまった子どもたちを対象に教育メタバースの環境を提供して、不登校支援としての効果と課題を確認する。

- 1 教育の場の選択肢に教育メタバースを追加することで不登校生の社会的自立に効果があるかを検証
 - 2 教育メタバースを導入することで得られる効果を整理
- 

実証研究の検証成果イメージ

1 教育の場の選択肢に教育メタバースを追加することで不登校生の社会的自立に効果があるかを検証



【3つの尺度で検証】
社会的自立に向けて
生徒の状態の回復に
寄与できるか。

2 教育メタバースを導入することで得られる効果を整理

【2つの視点で整理】

- ・不登校児童生徒
- ・講師/運営支援者

不登校児童生徒への効果

心身の健康アップ
学校居心地感アップ
自己肯定感アップ

欠席率が改善
コミュニケーション量が増加

アバターで通う仮想空間

教育メタバース

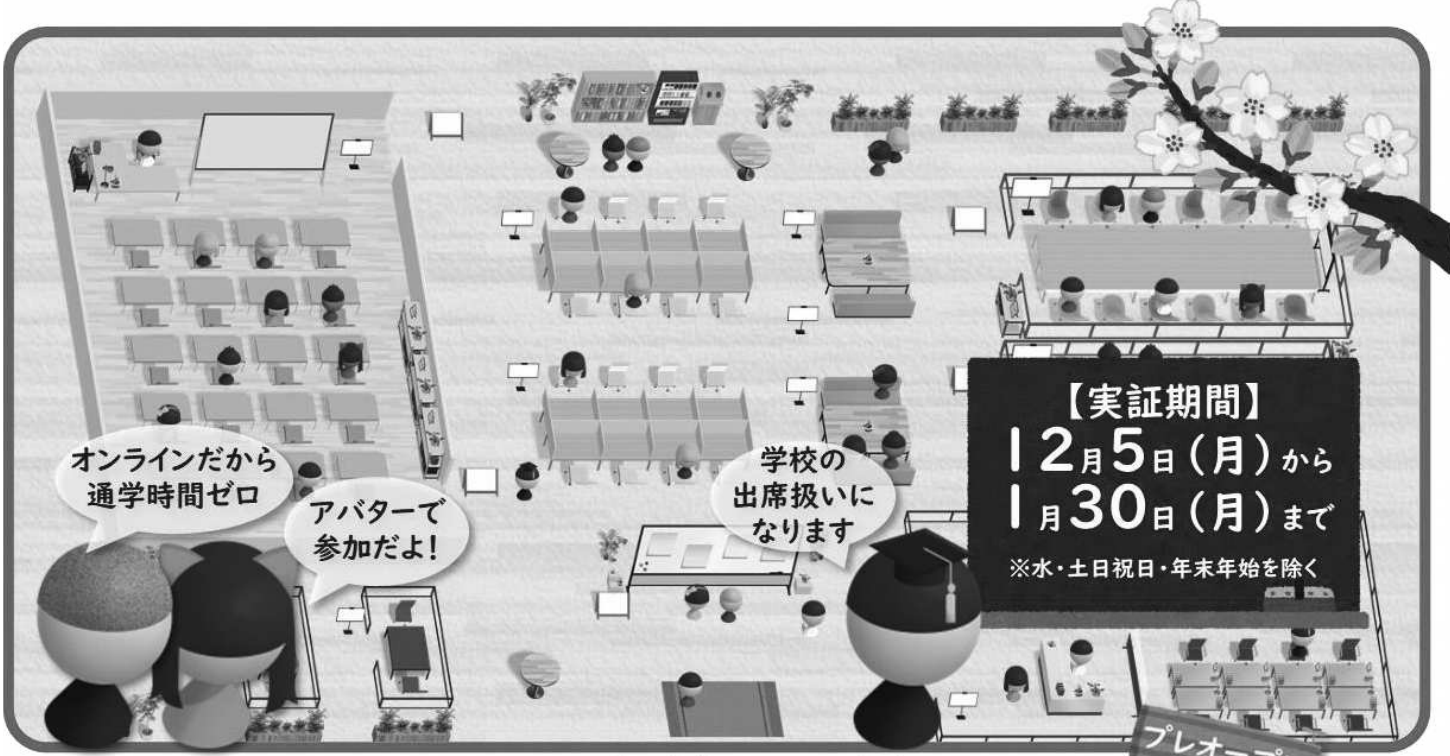
講師/運営支援者への効果

教育機会の創出

支援内容のバリエーション増加
対面型支援施設よりも運営効率化

2. 課題解決への先端技術の活用

小金井市で不登校になっている児童生徒を対象に、GIGAスクール端末を用いて自身がアバターとなって通えるバーチャル教育空間を構築した。実証期間は、2023年12月5日（月）から翌1月30日（月）とし、水・土日祝日を除く、計24日間とした。



12月							2022	
日	月	火	水	木	金	土		
						1	2	3
4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30	31		

1月							2023	
日	月	火	水	木	金	土		
1	2	3	4	5	6	7		
8	9	10	11	12	13	14		
15	16	17	18	19	20	21		
22	23	24	25	26	27	28		
29	30	31						

小金井市の不登校の子供のための
多様な学びを実現するバーチャル空間

バーチャル教育空間には、富士ソフトが提供している既存の「FAMcampus（ファムキャンパス）」を利用し、専用のフロアを構築した。
また、不登校専門家の助言に基づき、「ビデオ通話時はカメラデフォルトオフ」「チャット機能無効化」の通常と異なる仕様とした。

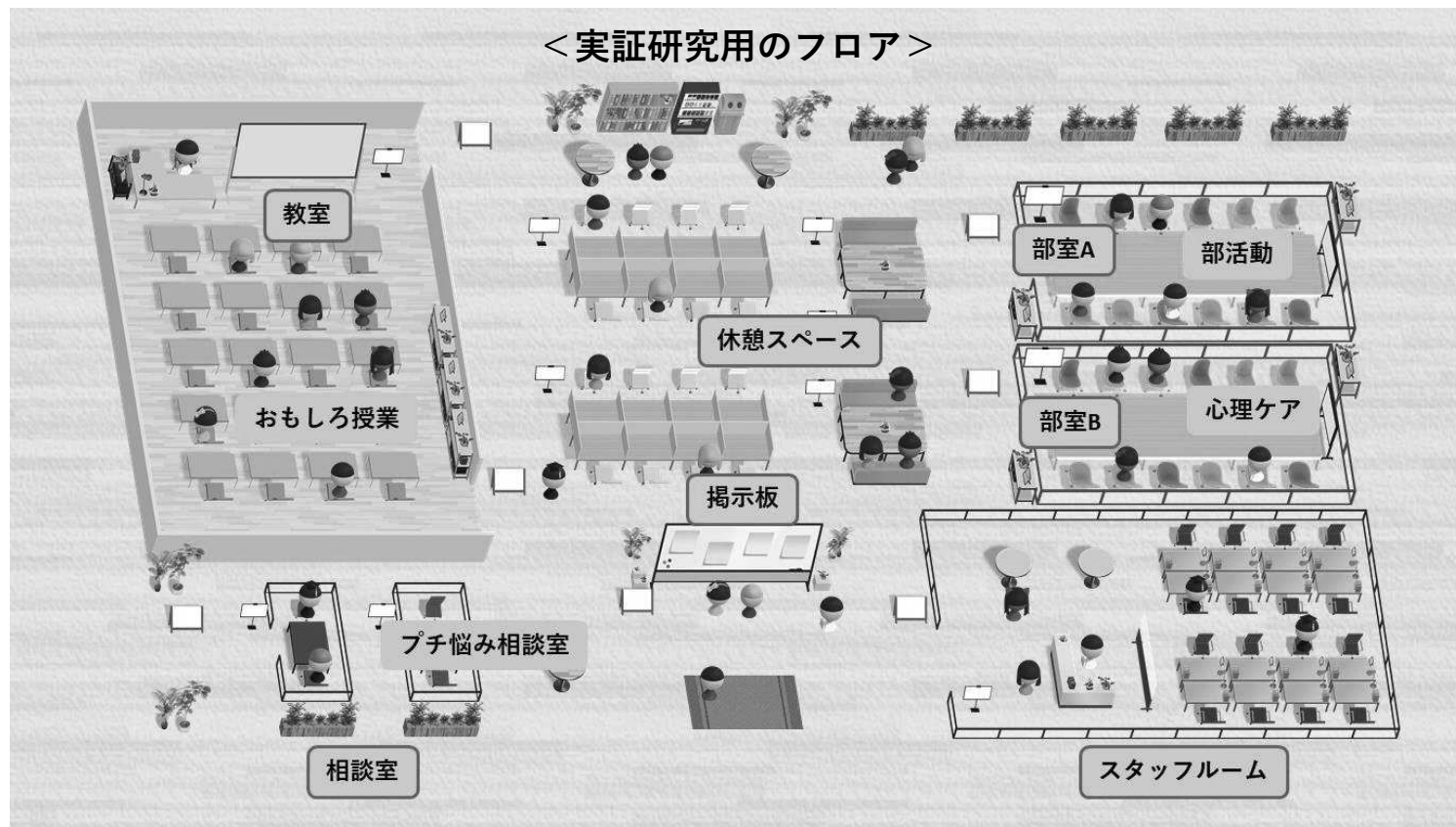


みんながアバターになって通う
バーチャル教育空間「FAMcampus」

気軽にビデオ通話する



自分の状態を知らせる



- ※教室や部室に着席すると、Zoomが起動する設定
- ※ビデオ通話時のカメラデフォルトOFF
- ※チャット機能OFF

理数系YouTuberや英語講師による特別授業を用意し、小学1年生から中学3年生まで学年を問わずに参加できるプログラムを構成した。また、不登校支援専門のスタッフとカウンセラーを配備し、児童生徒や保護者の心のケアを行う相談室を開設した。



おもしろ指導者による特別授業

算数
数学

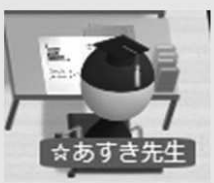


math channel (マスマチャンネル)



社会で役立つ算数・数学

理数系YouTuberグループが講師をつとめます。生活の身近に存在するものを算数数学の視点で捉え、数字の不思議を発見していく授業です。



英語

音文字 (おともじ)



音で発見！伝わる英語のコツ

楽しく英語が学べる手法「Jフォニックス」団体が講師をつとめます。ホントの“音”の発見から、英語の基礎が身に着いてしまう不思議体験を提供します。



小1～中3までが楽しめる授業
と
不登校支援専門員を用意

point 2 カウンセラーによる プチ悩み相談室

保護者もOKです



バーチャル空間を常時解放すると、講師/運営支援者の負担が増すことが予想されたため、時間割や解放時間を設けてメリハリのある運営を行った。時間割の情報は、バーチャル空間内の掲示板に常時貼りだすとともに、保護者にもメールで資料の配布を行った。

木曜日と金曜日の

時間割（じかんわり）

水曜・土曜・日曜はお休みです。

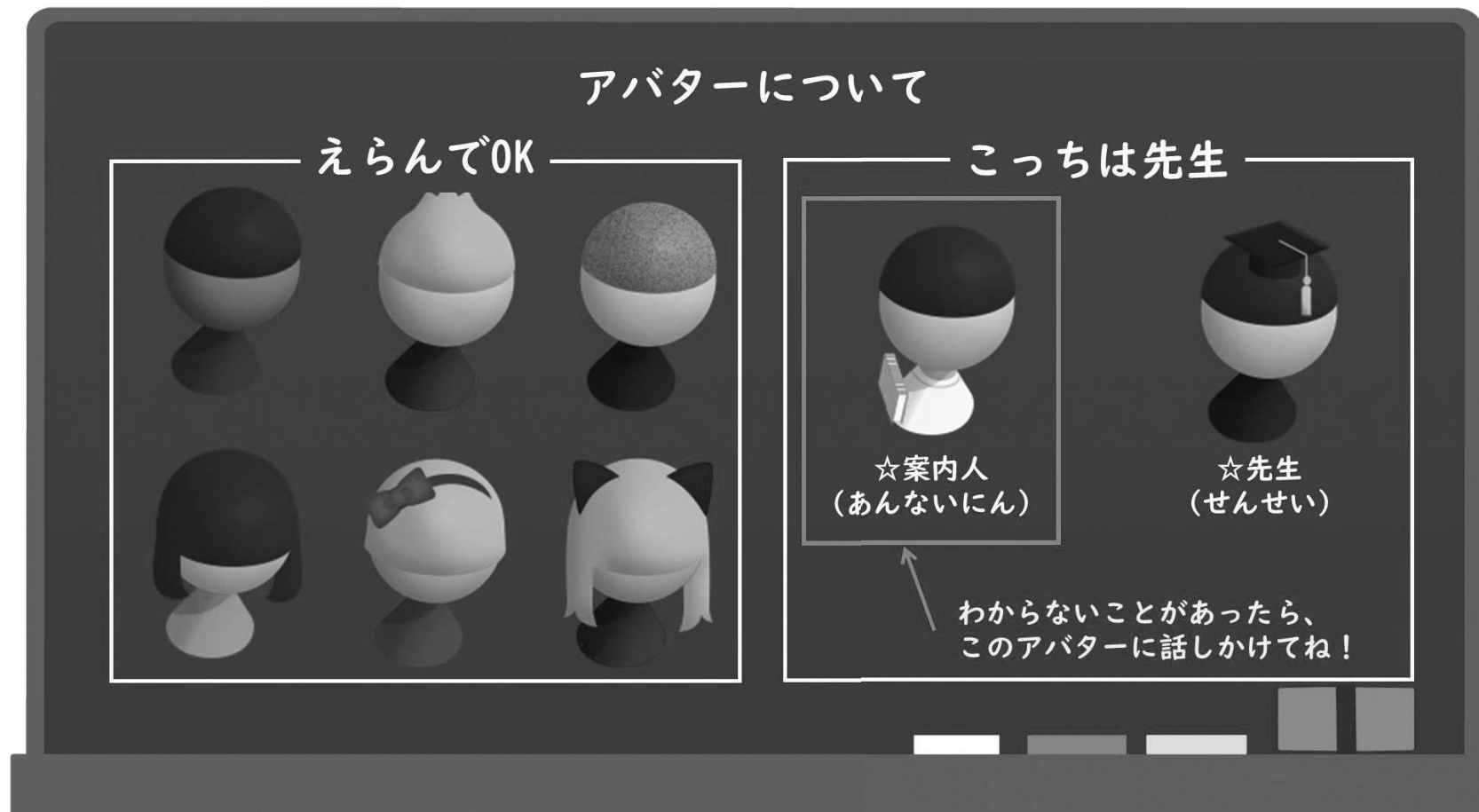
	教室	部室B	相談室
10:15~10:25 (5分休み)	朝ホームルーム		
10:30~11:15 (15分休み)	おもしろ授業(前半)		
11:30~12:15 (5分休み)	おもしろ授業(後半)	心ケア体験	
12:20~12:30 (お昼休み)			
13:00~14:00		体験ゲーム部	相談会

おもしろ授業メニュー

- ・ 木曜日…算数数学
(さんすう/すうがく)
- ・ 金曜日…英語(えいご)

木曜日と金曜日は、自由に参加できるプログラムが増えます！

不登校児童生徒と講師/運営支援者の見分けをつけるため、選んでよいアバターの設定ルールを定めて実証を開始することとした。



3. 先端技術を活用した効果

質的評価

<子供たち>

- ・参加実績
- ・毎授業後の感想

<保護者>

- ・子供の変化
- ・実証事業評価

数的評価

<子供たち>

- ・居心地感尺度（学校/教育メタバース）
- ・関わり尺度（教師/運営支援者）
- ・自己肯定感尺度
- ・KINDL®QOL尺度（身体的健康/情緒的Wellbeing）

	事前意識調査	一般登校生徒調査	事後意識調査	授業後アンケート
実施目的	本実証事業における、事前説明会および実証環境への参加希望の有無を確認。 参加希望者には、事後比較を行うために評価指標用の設問を聴取。	各評価指標における、不登校の生徒と一般性の傾向比較のために、一般生徒を対象に聴取。	事前調査との比較用の事後アンケート。参加の有無を問わず、事前申し込みいただいた方を対象に調査依頼。	メタバース環境上の授業を受けた生徒にコンテンツの評価を聴取。
実施方法	【伝達方法】にて、事前説明会および本実証事業への参加希望有無確認を兼ねたWebアンケートを実施。	【伝達方法】にて依頼し、Webアンケートにて回答を収集。	本検証事業の実証期間終了後に、WebアンケートのURLをメールにて配信し回答を収集	本検証事業にて実施された各授業の終了時に、メタバース内のオブジェクトからリンクされたWebアンケートにて回答を収集
調査対象	対象地域の小中学生で年間30日以上欠席を示す児童生徒で、学校が「不登校」と判断し、本検証事業への参加の機会を与えられた児童生徒およびその保護者	本検証実施地域の市内の中学校2年生の1学年	事前調査に回答した児童生徒およびその保護者（児童生徒の本検証事業への参加有無は不問）	本検証事業のコンテンツに参加した児童生徒
依頼数	215	90	56	254
回収数	89	90	32	149 (同一児童生徒の重複回答あり)
有効回答数	56	90	31	149 (同一児童生徒の重複回答あり)
実施期間	2022年11月28日～2023年1月30日 (実証期間中も申し込みを受け付け)	2023年1月26日	2023年2月1日～2月12日	2023年12月5日～2023年1月30日
聴取内容	<p><保護者回答></p> <ul style="list-style-type: none"> Zoom対談 & 本実証説明会の参加申し込み確認 実証事業参加申し込み確認 申し込み事項入力（説明会参加時） 生徒情報入力（実証事業参加時） <p><生徒児童回答></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校居心地感尺度 教師の関わり尺度 自己肯定感尺度 身体的健康KINDL® QOL尺度 情緒的Wellbeing KINDLE® QOL尺度 	<ul style="list-style-type: none"> 学校居心地感尺度 教師の関わり尺度 自己肯定感尺度 身体的健康KINDL® QOL尺度 情緒的Wellbeing KINDLE® QOL尺度 <p>↑</p> <p>不登校生徒児童の特徴を把握するための比較</p> <p>←</p> <p>実証事業を通しての効果を検証するための事前事後比較</p> <p>→</p>	<p><保護者回答></p> <ul style="list-style-type: none"> 実証事業に参加したことでの変化の有無／変化詳細（参加者のみ） 実証事業に参加しなかった理由（非参加者のみ） 実証事業に対する評価／感想 <p><生徒児童回答></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校居心地感尺度 教師の関わり尺度 メタバース居心地感尺度 メタバースでの教師の関わり尺度 自己肯定感尺度 身体的健康KINDL® QOL尺度 情緒的Wellbeing KINDLE® QOL尺度 	<ul style="list-style-type: none"> 出席番号 授業が楽しかったか 授業が難しかったか 困ったことはあったか 継続して同じ授業を受けたいか 別の授業もうけてみたいか

参加実績 (全期間)

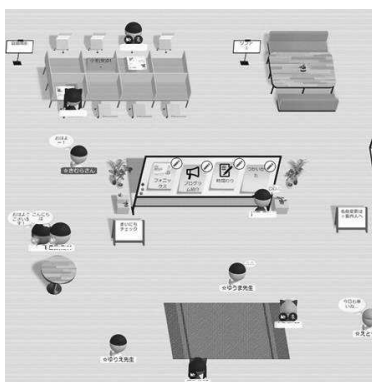
不登校数 (R3年度実績)
 ・小学生：121名
 ・中学生：94名
 ・全体：215名

強制なし
 26%が
 申込

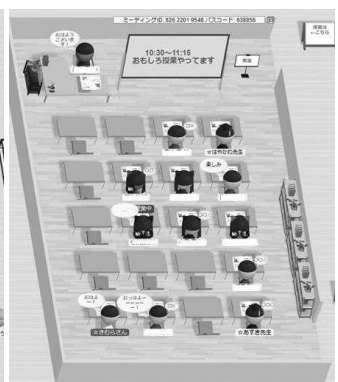
実証参加申込
 ・小学生：19名 (申込率15%)
 ・中学生：37名 (申込率39%)
 ・全体：56名 (申込率26%)

強制なし
 57%が
 参加

実証実施状況



ホームルーム前
(オープン5分後)



授業中



おもしろ授業 (算数数学)
 おもしろ授業 (英語)



教育委員会
担当者

実証に参加した32名のうち、
 19名 (59%) は適応指導教室 (もくせい教室) に
 通えていなかった子であり、バーチャル空間によって
 支援が行き届くようになりました。

出席人数			
日付	授業	出席人数	
12/5	月	算数数学	12
12/6	火	英語	10
12/8	木	算数数学	12
12/9	金	英語	8
12/12	月	算数数学	10
12/13	火	英語	11
12/15	木	算数数学	7
12/16	金	英語	8
12/19	月	算数数学	6
12/20	火	英語	4
12/22	木	算数数学	7
12/23	金	英語	4
1/10	火	英語	2
1/12	木	算数数学	5
1/13	金	英語	7
1/16	月	算数数学	7
1/17	火	英語	7
1/19	木	算数数学	7
1/20	金	英語	5
1/23	月	算数数学	6
1/24	火	英語	5
1/26	木	算数数学	3
1/27	金	英語	6
1/30	月	算数数学	9

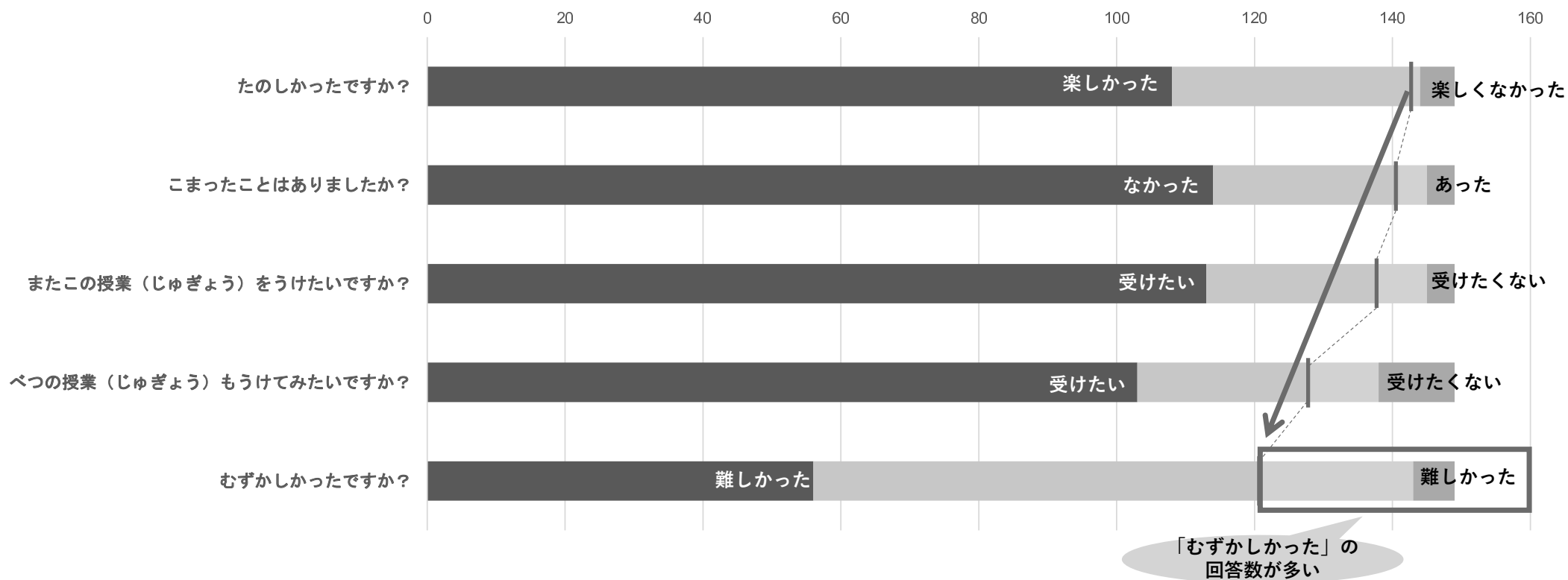
集計			
出席日数	出席率	実績	割合
日	0%	24人	43%
1日	4%	6人	11%
2日	8%	8人	14%
3日	13%	3人	5%
4日	17%	1人	2%
5日	21%	3人	5%
6日	25%	1人	2%
7日	29%	1人	2%
8日	33%	2人	4%
9日	38%	1人	2%
10日	42%	1人	2%
11日	46%	1人	2%
12日	50%	2人	4%
13日	54%	人	0%
14日	58%	人	0%
15日	63%	1人	2%
16日	67%	人	0%
17日	71%	人	0%
18日	75%	人	0%
19日	79%	人	0%
20日	83%	1人	2%
21日	88%	人	0%
22日	92%	人	0%
23日	96%	人	0%
24日	100%	人	0%
計		56人	100%

32名が
1日以上参加

子供たちの授業後アンケートでは、肯定的な評価を得られた。
一方で、授業の難易度には課題があった。

授業後の毎回アンケート（4段階評価）

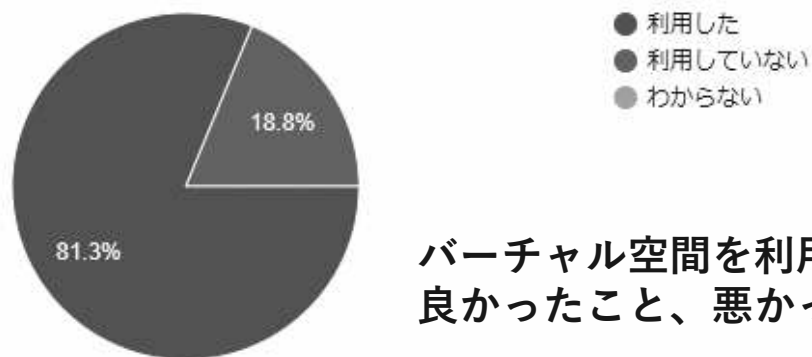
※同一児童生徒の重複回答あり



質的評価：保護者（利用状況と子どもの変化アンケート）

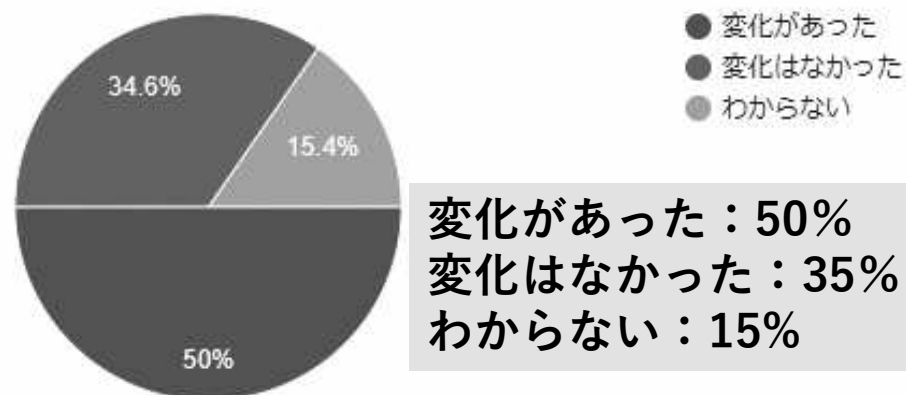
対象のお子様は、2022年12月5日～2023年1月30日の期間に実施されたバーチャル空間を利用されましたか？

32件の回答



バーチャル空間を利用されたことで、お子様の様子に変化はありましたか？良かったこと、悪かったこと問わず、変化があったか教えてください。

26件の回答



32件の保護者から回答が得られた（回答率57%）。実際に参加したお子様の50%に変化が見られた。

変化があった：50%
変化はなかった：35%
わからない：15%

●積極性が増した

- ・バーチャル空間での授業を受けることに対して積極的に関わっていたように感じます。
「今日はメタバースに参加する」というように自発的に参加する日を決めていました。
前半は、親が声かけをして時間などを確認することもありましたが、後半は自分で時間を確認してアクセスしていました。
- ・気づいたら部屋でメタバース授業を聞いていて、あとで「楽しかった」と授業の内容を話してくれることが数回ありました。「メタバースも楽しいけどやっぱり人と会って話したい！」と言い、もくせい教室に通うようになりました。
- ・英語授業に一度だけ参加。それ以降は続かなかったが、代わりに家で英語のドリルに取り組み始めた。

●対人関係の怖さが無くなった

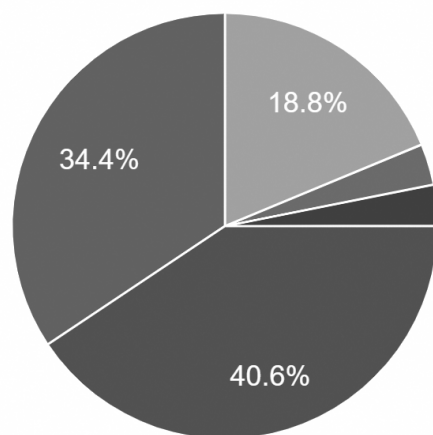
- ・小学校に行くと、体の大きい高学年が怖いと言っていたが、バーチャルでは学年を超えて（小2男子と中1男子同士で）、アバターを使って会話をすることができ、楽しかったようだ。
- ・人前で発言することが苦手だけど、バーチャル空間でなら発言することができました。

●生活にメリハリがついた

- ・授業＝勉強＝楽しくないと初めは思っていたようだが、算数の授業と謎解きクイズがおもしろかったようで、その時間を楽しみにし、生活にメリハリがついた。
- ・利用前は怪我で休んでゴロゴロしていたが、利用し始めてからはバーチャル空間で先生に会えるのを毎日楽しみにするようになった。

バーチャル空間を用いた、この実証事業に対する評価を教えてください。

32件の回答



- とても評価できる
- まあ評価できる
- どちらともいえない
- あまり評価できない
- まったく評価できない

評価できる：75.0%
どちらともいえない：18.8%
評価できない：6.2%

保護者の実証事業に対する評価については、「評価できる」の回答が75%に達した。

●学びの場の選択肢/居場所が増えた

- ・学ぶのは好きだが、いじめのせいで人の目が気になって学校いけないので、学びたいと思える子が学べる場所があるのは嬉しい。
- ・家から参加できること、アバターの状態で他の子どもとも交流できること、バーチャル空間を自由に動き回っても大丈夫なことが、子どもにとって良かったようです。
- ・学校以外で何かに取り組める場の選択肢を増やそうとする取り組みはとてもありがたいです。
- ・もくせい教室に通うか、メタバースの授業に参加するか選択肢が増えて好きなように自由に学んでいました。

●保護者自身の不安/負担が軽減した

- ・他の子と時間を共にしていると、ポツンとうちにいるのは我が子だけではないのだなと少しホッとしました。
- ・登校出来ない・学校に馴染めない子の親としては、今回の様な試みはとても希望の持てる物に思えました。
- ・考えることが楽しかったようです。親にとっても新たな手段の発見となりました。
- ・保護者自身も苦しくなる時があるので、子どもが楽しいだけでなく、親の息抜きにもなり良かったです。

●授業の内容には無理があった

- ・授業の内容が、幅広い年齢層に向けてわかる話題にしているため、低学年の息子には少し難しいところもあったように思います。
- ・授業内容は、初めは良かったが、後から難しくなり、ついていけず、行きたがらなかった。

●子供の自立に対する懸念はある

- ・アバターとしての生活が中心になったとして、将来自立できるかはどうかは親として心配です。

評価に用いた指標概要（解説）

◆居心地感尺度（学校／教育メタバース）

「学校居心地感」は、学校適応との関連でとくに不登校との関連を未然に見い出すために開発した尺度。過去の欠席日数とこの尺度を用いて、翌年の欠席日数を精度高く予測することが確認されている。学校享受感尺度やストレス反応尺度よりも欠席日数との関連が高いのが特徴である。

「学校でゆったりしていただける」「学校で自分は幸せである」「学校になじんでいる」などの10項目から構成され、「おもう」～「おもわない」の5件法で問うものである。

◆自己肯定感尺度

「自分には誰にも負けないもの（こと）がある」「自分に満足している」「自分には好きなもの（こと）がある」などの8項目から構成され、「おもう」～「おもわない」の5件法で問う。

自己肯定感とは、自分自身のあり方を概して肯定する気持ちのこと指し、理想自己と現実自己のずれをうまく調節しながら、ありのままの自己を受け入れるという自己受容性とは区別するものである。

◆関わり尺度（教師／運営支援者）

不登校など適応で課題を抱えた子ども・若者の改善事例の分析から、適応の改善や不安・緊張症状の改善に効果的な支援者の関わりを明らかにした研究を基にした、支援の効果を測る尺度。

「自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる」「何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる」などであり、5項目で構成されている。これも「おもう」～「おもわない」の5件法からなる。

◆KINDL® QOL尺度（身体的健康／情緒的Wellbeing）

QOLとは、生活の質のことであり、WHOが開発したQOL尺度の中の子ども用で標準化されたものである。

「身体的健康」と「情緒的 Wellbeing」それぞれ4項目で構成され、「おもう」～「おもわない」の5件法からなっている。

▼参加児童生徒の評価（教育メタバース空間の居心地の良さと支援者の関わりについて）

●「教育メタバース空間の居心地の良さ」と「教育メタバースの支援者の関わり」の評価

- ・単純な平均値の高低で言えば、教育メタバース空間の方が学校の空間よりも居心地の良さが高い
- ・他方でメタバース支援者との関わりはかなり少ないことが分かった（図表1）。
- ・しかし、両者に有意な差があるかについてt検定を行ったが、いずれも統計的に有意とは言えなかった。

- ・図表2では「教育メタバース空間の居心地の良さ」は、「教育メタバース支援者の関わり」と高い相関を持っていた。
- ・しかしながら、図表1の「関わり」での、有意な差がなかった点と矛盾が生じた。

- ・そこで、「メタバースの居心地感」の平均値（2.64）を基に、2.5以上を「メタバース居心地感高群（12名）」と、2.5未満を「メタバース居心地感低群（13名）」の2群に分けた。
- ・その上で、独立したt検定を実施した結果、平均値は「高群」が2.25、「低群」が0.85であり、「メタバース支援者の関わり」で有意な差が見られた。
- ・「メタバース居心地感低群」は、運営支援者との関わりをほとんど体験していなかったことが示された。



教育メタバース空間を居心地よく感じるためには、まずは子どもが支援者と何らかの関わりを持つことが重要。運営支援者のヒアリングでは「バーチャル空間では話しかけるタイミングが難しい」という声があり、話しかけには何らかの仕掛けやきっかけが求められる点が、教育メタバースの運営上の課題といえる。

図表1：教育メタバースと学校、教師とメタバース支援者の関わりに関する記述統計（n=25）

		平均値	度数	標準偏差
居心地	①学校居心地感_事後	2.40	25	1.132
	メタ居心地感_	2.64	25	1.257
関わり	②教師との関わり_事後	2.12	25	1.900
	メタ支援者との関わり	1.52	25	1.806

図表2：メタバース居心地感と事後の各尺度との相関関連（n=25）

		メタ居心地感	メタ支援者との関わり	学校居心地	教師との関わり	自己肯定感	身体的健康	情緒的Wellbeing
メタバース空間の居心地感	Pearsonの相関係数	1	0.58**	0.111	0.022	0.235	0.128	0.104
	有意確率		0.002	0.599	0.916	0.259	0.542	0.621

※ 別添資料「学芸大学小林先生レポート」より抜粋

▼本検証事業に参加した児童生徒の検証事業開始前後の変化

●教育メタバースを利用した子どもが事前と事後で変化があったのかについて、対応のある t 検定を実施。（図表 3）

- ・結果、平均値に有意な差異が「情緒的Wellbeing」に認められた。
- ・これは心の健康に良い体験ができているといえる。

- ・なお「情緒的Wellbeing」に有意差が見られることは、登校群と不登校群の間に差異でも見られたものであった。
- ・他方で「学校居心地感」や「自己肯定感」の変化も期待されたが、その変化は確認されなかった。

- ・考えられることとして、「学校居心地感」は、不登校前の状況が強く反映されており不登校（復学していない）状態では正しい評価ができない性質であるといえる。
- ・「自己肯定感」については、褒められる、認められるといった体験が、短期間の実証期間中では感じられなかったと推察される。
- ・しかし、教育メタバース空間で心の健康に良い経験が積み重なることで自己肯定感につながっていくことが予想される。



**教育メタバースは、「こころの健康」を短期間でも向上することができる。
また、これが長期にわたり継続され、積み重ねられることで自己肯定感の向上に繋がることが期待される。**

図表 3：対応サンプルの統計量（n=29）

←		平均値←	度数←	標準偏差←	平均値の標準誤差←
ペア 1←	学校居心地感_事前←	2.35←	29←	0.985←	0.183←
	学校居心地感_事後←	2.28←	29←	1.102←	0.206←
ペア 2←	教師との関わり_事前←	2.41←	29←	1.823←	0.338←
	教師との関わり_事後←	2.24←	29←	1.921←	0.357←
ペア 3←	自己肯定感_事前←	3.27←	29←	0.812←	0.151←
	自己肯定感_事後←	3.10←	29←	1.083←	0.201←
ペア 4←	身体的健康_事前←	70.52←	29←	12.126←	2.252←
	身体的健康_事後←	74.14←	29←	14.643←	2.719←
ペア 5←	情緒的 Wellbeing_事前←	70.17←	29←	15.612←	2.899←
	情緒的 Wellbeing_事後←	76.38←	29←	14.072←	2.613←

※ 別添資料「学芸大学小林先生レポート」より抜粋

▼事前と事後の変化に関連する要因

本実証における各意識調査の変化が、他の意識調査やその変化と関連しているのかについて、整理する。

1. 「学校居心地感」と「運営支援者との関わり方」に有意な相関関係がある。

「自由に話をしやすいようなふんいきにしてくれる」「何かをしようとするとき、いろいろなやり方を示して、選ばせてくれる」など、教師が個別に本人を受けとめる関わりを増やすことが、「学校の居心地感」を向上させることを示している。この関わり方は、**本来、対面で不登校など適応に課題のある子どもに接するときに有効である。**ネット上、とくに今回実施の教育メタバース空間内でアバターを用いた対話では、対面よりも実現が難しい側面があることも否めない。

2. 「情緒的Wellbeingの変化」と「学校居心地感の変化」に有意な相関関係がある。

不登校の子どもにとって「学校の居心地感」をより感じることに「**こころの健康面の向上**」が関連することが伺える。子どもにこれを実感させるのは、「**教師/運営支援者との個別の関わり方**」に工夫が必要である。



心の健康面をより向上させるためには、子どもたちを個別に受け止める関わりを増やすことが重要。教育メタバースの環境に合わせた、関わるスタッフのスキルの向上、ソフト／ハード面での技術的開発上の工夫が求められる。

▼子どもの意識の変化と、保護者の本実証に対する評価の関連

保護者は本事業の評価を5段階で評定し、平均は4.14と比較的高った。
この評価と、子どもの意識の変化との関連を見たところ、以下の3点が示された。

1. 子どもの「メタバースの居心地感の変化」が上昇していることが保護者の評価と高い関連性を示す
2. 子どもの「教育メタバース支援者との関わり」が良好に変化して推移している場合ほど保護者の評価が高い
3. 子どもの「身体的健康」のQOLが良好に変化していくほど保護者の評価が高くなる



不登校支援に教育メタバースを活用することに対する保護者の理解を得るためには、
子どもの「メタバースの居心地感」「教育メタバース支援者との関わり」「身体的健康」を配慮した
システム環境（ソフト面、ハード面）を構築していくことが必要不可欠である。

4. まとめ

不登校支援に教育メタバースを用いることの成果

<見えてきた成果>



子供たち

- ✓ 積極性が増す
- ✓ 対人関係の怖さが軽減する
- ✓ 生活にメリハリがつく



保護者

- ✓ 学びの場の選択肢/居場所になる
- ✓ 自身の不安/負担の軽減につながる



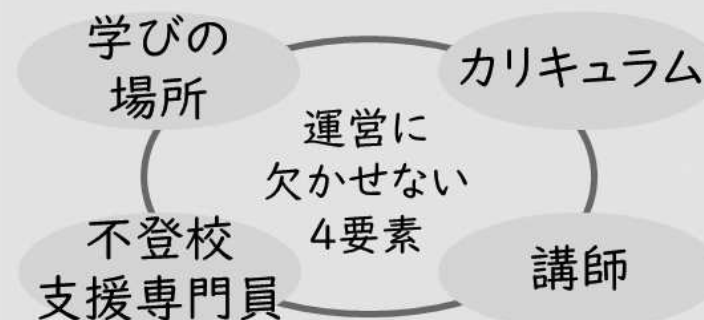
行政機関

- ✓ これまで支援が行き届かなかった子にも学びの場を提供することができる
- ✓ 勉強したい子が集まってくる

<今後取り組むべきこと>

バーチャル空間内のプログラム充実

- ①カリキュラムの拡充
- ②コミュニケーション機会の創出
- ③運営の充実と効率化



5. APPENDIX

【文部科学省】次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業

参加募集

オンラインだから通学時間ゼロ
 アバターで参加だよ！
 学校の出席扱いになります

【実証期間】
 12月5日(月)から
 1月30日(月)まで
 ※水・土日祝日・年末年始を除く

参加無料！お申し込みは裏面へ

プレオープン

小金井市の不登校の子供のための 多様な学びを実現するバーチャル空間

point 1 おもしろ指導者による特別授業

完全オンライン
 学年関係なく参加できる
 プログラム満載

【算数数学】マスタチャンネル(理数教育系YouTuber)
 【英語】おともじ(フォニックス団体)

point 2 好きなことに出会える部活動

プログラミング部
 イラスト制作部
 体験ゲーム部

point 3 カウンセラーによる
 プチ悩み相談室

保護者もOKです！

【同時開催】12月4日(日)14:00~
 一般聴講OK
 新しいフェーズに入った
 現代の不登校対策 & 説明会
 実証事業
 Zoom
 対談

東京学芸大学客員教授 小林 正幸
 小金井市教育委員 大熊 雅士
 早稲田大学講師 早川 穂子

【実施】文部科学省、小金井市教育委員会、東京学芸大学、(NPO)元気プログラム作成委員会、富士ソフト(株)

《保護者の方へ/募集要項》

現在、不登校となっている小金井市の小中学生を対象とした実証事業です。
 実証期間やプログラムは予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

◆この実証事業について

文部科学省の「令和4年度 次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」です。この事業は「GIGAスクール構想」による「1人1台端末」の活用が進む中で、目指すべき次世代の学校・教育現場などを見据え、教育の質の向上を図るとともに、新たな政策課題に対応すべく、教育現場で活用し得る先端技術や教育データを効果的に利活用するための実証などを行うことを目的としています。

この度、小金井市教育委員会と有識者と富士ソフト株式会社で構成した「教育メタパス実証研究委員会」では、この事業において「不登校対策としての『教育メタパスの効果と課題』と今後の可能性の検証」をテーマとして、不登校生を支援するプログラムと体制を準備いたしました。バーチャル教育空間「FAMcampus（ファミキャンパス）」上での実証を通じて、不登校対策におけるバーチャル教育空間（教育メタパス）の効果を検証するとともに、検証結果に基づく課題の抽出と教育機会の保障につながる新たな可能性を検討していきます。

現在、様々な事情によって学校に通えなくなってしまっているお子様をお持ちの保護者様には、是非、御覧をご希望いただき、この実証事業にご関心をもちますよう、よろしくごお願い申し上げます。

◆実証期間と1日のスケジュール

実証期間：2022年12月5日(月)～2023年1月30日(月)
 開校日：月・火・水・金(週4日)
 閉校日：水・土・日・祝日
 ※12月24日(土)～1月9日(月)の期間はお休み

スケジュール	プログラム	月	火	水	木	金
10:00	開校					
10:15～10:25	朝ホームルーム	○	○		○	○
10:30～11:15	特別授業	○	○		○	○
11:30～12:15	特別授業or心確体験	○	○		○	○
12:20～12:30	昼ホームルーム	○	○		-	-
	(お昼休み)					
13:00～14:00	プチ悩み相談室	-	-		○	○
16:00～17:00	部活動(※)	※	※		※	※
17:30	閉校					

※部活動の内容は、現在調整中です。
 準備でき次第、バーチャル空間内の掲示板にてご案内いたします。

◆参加基準と出席の扱いについて

参加基準：現在、不登校の状態にある
 小金井市立小・中学校に在籍している児童・生徒

出席の扱い：1日あたり、1コマ以上の「特別授業」の参加により「出席扱い」といたします。
 出席した日数はバーチャル空間から在籍校に連絡いたします。

簡単！ログイン方法

インターネットにつながる
 カメラ/マイク付きPCでご参加ください

- ①バーチャル教育空間にアクセス
 [バーチャル空間のURL]
<https://service.school.famcampus.jp/>
- ②IDとパスワードを入力してログイン
- ③バーチャル空間内の掲示板を確認して興味あるプログラムにご参加ください。

【その他事項について】
 スマホ/iPad/タブレットは正常に動作しない場合がありますのでご利用をお控えください。

【IDとパスワードについて】
 IDは参加申込時に設定いたします。パスワードは、参加申込書/メール等で案内いたします。

【申込はこちらから】
 参加無料
 QRコードにかざしてください

【本実証に関するメールお問合せ先】富士ソフト株式会社文部科学省実証担当窓口：famcampus-info@fsi.co.jp



令和5年4月21日

小金井市教育委員会生涯学習部
図書館長 内田 雄介 様



小金井市図書館協議会

会長 大串 夏身



小金井市行財政改革2025に基づく図書館緑分室の委託化について (答申)

令和4年11月25日付け小教生図発第24号にて諮問を受けました標記の件について、別紙のとおり答申します。

小金井市行財政改革2025に基づく
図書館緑分室の委託化について（答申）

令和5年4月

小金井市図書館協議会

1 答申にあたって

小金井市立図書館では、平成25年に全面改定した小金井市立図書館運営方針の後継として、令和4年3月に小金井市立図書館基本計画（以下「基本計画」という。）を新たに策定しました。基本計画の策定には、私たち図書館協議会も多くの時間をかけて議論を交わし、意見を述べるなど策定に深く関わり、今後の小金井市の図書館サービスの充実発展に繋がる計画を策定できたと思っています。

この間の図書館をとりまく状況を見ると、新型コロナウイルス感染症が社会へ与えた影響は非常に大きいものでありましたが、様々な感染症対策の結果、ようやくアフターコロナを考える時期になってきています。このような中、昨年11月に私たち図書館協議会に図書館長から小金井市行財政改革2025に基づく図書館緑分室（以下「緑分室」という。）の業務委託について諮問が行われました。小金井市の図書館運営における業務委託は、平成26年4月の図書館貫井北分室、平成27年8月の図書館東分室と順に実施され、両分室とも開館日の増加や開館時間の延長、創意工夫に基づく行事の実施など、市民から好評を得ています。

今回、諮問された緑分室は、公民館との複合施設である小金井市緑センター（以下「緑センター」という。）内に設置された図書館分室です。緑分室を併設した緑センターは昭和48年に開館した小金井市青少年センター（以下「青少年センター」という。）を前身とした公民館と図書館の複合施設として平成3年10月に開館し、青少年の健全育成と教養の向上を図るための事業と施設をレガシーとして、宿泊施設機能、野外調理場、テニスコートを活用して、青少年の社会教育に重点を置いた活動を行うなどの特徴を持った施設です。また、隣接する浴恩館公園敷地内には文化財センターがあり、市内から発見された考古資料や古文書・民具などをもとに、市のあゆみや生活についての常設展示が行われ、公園内には市の天然記念物のツツジ群などもあり、子どもたちが自然に親しめるような環境となっています。

このような特徴をもった緑センターに併設された緑分室に係る諮問について、図書館協議会として基本計画において今後の方向性として示された「市民サービスの向上を図るため、さらなる市民協働・公民連携を検討する」方針に基づき協議を重ねましたので、ここに答申いたします。

2 答申

次のとおり緑分室の業務委託に際して、配慮又は留意すべき事項について提言します。小金井市教育委員会及び小金井市には、この答申を真摯に受け止め対応する

ことを期待します。

(1) 緑分室の開館日数及び開館時間について

併設されている公民館の休館日である第1・第3火曜日を、緑分室の休館日とし、開館日数を増やすことが利用者にとって有益と考えられます。

また、開館時間を他の2つの分室と同様に午前9時から午後7時までと延長することが利用者にとって有益と考えられますが、緑センターの立地や開館時間を延ばすことによる業務委託料の増加など、行政として適切に判断してください。

(2) 緑分室の施設の老朽化について

全体的に閲覧室内の照明が暗いため、LED化など照明器具の改善を行い、読書に適した照度となるように対応してください。

また、閲覧スペースなどの充実が図られるよう検討してください。

(3) 緑分室の地域資料の充実と文化財センターとの連携について

緑分室は、「答申にあたって」で述べたように文化財センターと隣接し小金井市の歴史と市民生活を知る上で、また、地域への愛着を育む上で、重要な役割を持っています。緑分室の地域資料を一層充実させ、文化財センターの資料や活動と一層密接な関係をもった事業・サービスを展開することで、その役割をよりよく果たしていくことが期待されています。

この点について、充実が図られるよう十分な配慮をお願いします。

(4) 図書館蔵書保管体制の見直しについて

現在、緑分室には、能力を超えた蔵書が保管されています。市民が蔵書を利用する空間として、もっと余裕を持たせることが望まれます。しかし、小金井市図書館全体としても蔵書保管能力を超えている現状です。保管能力は、建て替えなど施設の拡張を行わない限り、増えることはありません。

市として貴重な地域資料や残すべき行政資料などの除籍できない資料は、年を重ねるごとに増える一方であり、施設の拡張を望めない現状において課題を解決するには資料の外部保管を進めるなど早急な対応を求めます。

また外部保管にあたっては、温度や湿度管理など保管資料が適切に保管される環境となるよう配慮をお願いします。

(5) 図書館サービスのDXの推進について

これからの図書館においてDXの対応は必須であるが、現状の緑分室においては通信機器や環境の整備が遅れています。

よって、現在未設置である利用者用インターネット端末の設置、施設利用者が

利用できる wifi 環境の整備を優先的に実施することを求めます。

さらに、市民のなかで ICT 技術を持つ人たちの協力も得て、市民の調べる能力、ICT 技術の向上等に取り組むなどの取組を検討してください。

(6) 既存事業の継承について

緑分室で実施し実績がある既存事業については、業務委託後においても可能な限り事業が継承されるよう十分な配慮を求めます。

(7) 地域等との連携の推進について

隣接する緑小学校や緑中学校、緑児童館や地域団体など近隣地域との連携について、受託事業者が業務委託後もスムーズに連携をとることができるよう、市が十分なサポートを実施してください。

(8) 図書館就労者の司書資格について

受託事業者の責任者やレファレンス担当者など責任ある役割に司書の有資格者が確実に配置されるよう十分な配慮をお願いします。

これからの図書館サービスにおいては、司書の有資格者には有資格者にしかできない業務を任せ、資格がなくともできる業務については、司書資格の有無を問わずその業務に必要な能力のある者に任せることも必要です。そうすることで、地域の人材を柔軟に採用できるなど、地域の人材活用にも繋がっていくことが期待できます。

(9) 受託事業者への引継ぎについて

受託事業者が業務委託後の業務をスムーズに実施できるよう、マニュアルの整備など適切に実施してください。更に、受託事業者の職員においても、小金井市政の業務に携わる者として必要な一定の行政知識を備えられるよう、市が十分なサポートを実施してください。

また、業務委託後も、受託事業者と市において、日々の業務で発生した事案とその対応などが速やかに共有されるよう、適切な連携体制の構築を求めます。

(10) 図書館本館の役割について

緑分室を業務委託した場合、図書館本館のみが直営となるが、業務委託となる分室を取りまとめる本館として、また小金井市の図書館行政の全体を統括する本館として、より一層の責任と能力が図書館本館に求められます。

図書館本館がこの責任をしっかりと果たせるよう、本館職員の人材育成や本館機能の改善に努めてください。

3 結びに

行政を取り巻く社会経済情勢は非常に厳しく、小金井市の財政状況も庁舎建設などの大きな課題を抱える中でとても厳しいものであることは理解しています。

そのような中、図書館が置かれた状況を考えると、コンピュータ情報通信ネットワークを基盤とした新しい、また変化が激しい時代が到来して、学び直しの重要性が高まるとともに、新たな領域・テーマでの学びも求められるようになっていきます。

さらに、そうした時代を生きる人材の育成のために読書の重要性が認識され、地方自治体においては関連する計画も策定され、地域での読書活動推進の中心的な役割を果たすことを図書館は求められています。

また、急速なIT環境の変化に伴い、従来の昔ながらの図書館サービスでは時代に対応できなくなっており、図書館サービスを大きく見直すことが求められています。

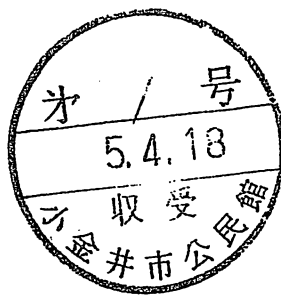
以上を踏まえ、私たち図書館協議会は小金井市の社会教育の根幹を担っている図書館サービス充実を大前提とし、緑分室の業務委託について上記のとおり提言します。

今回の答申は、「緑分室の業務委託を検討するにあたって、どのような配慮、留意事項が必要なのか」との諮問に対し、図書館協議会としての意見をまとめたものです。同時に、その内容は小金井市の図書館全体に共通する内容を含んでいることを図書館協議会条例第2条第2項の意見として付言します。

私たち図書館協議会は、小金井市への期待を込めて、ここに答申いたします。

第17期小金井市図書館協議会

委員	大 串	夏 身
委員	大 塚	奈奈絵
委員	川 井	まさよ
委員	高 橋	信 子
委員	諏 訪	啓二郎
委員	大久保	智 絵
委員	林	聖 子
委員	伊 東	哲
委員	奥 村	啓
委員	藤 森	洋 子



令和5年5月8日

生涯学習部公民館

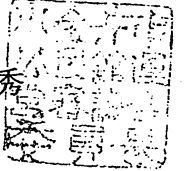
令和5年4月18日

小金井市教育委員会生涯学習部

公民館長 鈴木 遵矢 様

第36期小金井市公民館運営審議会

委員長 渡邊 恭秀



副委員長 嗟峨山 康夫

委員 浅野 正道

大久保 智絵

川原 美紀

橋本 利一

坂内 祐一

本川 交

吉田 孝

令和4年11月9日付け小教生公発第62号「小金井市行財政改革2025及び小金井市公民館中長期計画に基づく公民館緑分館の委託化について」で諮問を受けました件につきまして、別紙のとおり答申いたします。

小金井市行財政改革2025及び小金井市
公民館中長期計画に基づく公民館緑分館の
委託化について

答 申 書

令和5年4月

小金井市公民館運営審議会

1 はじめに

小金井市（以下「市」という。）では、平成9（1997）年に行財政改革大綱を策定して以来、行財政改革に取り組んでおり、平成22（2010）年5月に策定した第三次小金井市行財政改革大綱において、小金井市公民館（以下「公民館」という。）については、公民館業務の一部委託化が実施項目に位置付けられた。これに伴い、小金井市貫井北センター設立に際して、第31期小金井市公民館運営審議会は、「（仮称）貫井北町地域センター運営等について」の諮問を受け、市民協働、公民連携による新たな公民館運営の在り方について、望ましい施設運営の条件、在り方を示す形で、平成25（2013）年7月に答申を行った。市は本答申に基づき、平成26（2014）年4月から公民館貫井北分館の業務をNPO法人市民の図書館・公民館こがねい（以下「NPO法人」という。）に委託している。

同年10月には、第32期小金井市公民館運営審議会は、「公民館業務の見直しについて」の諮問を受け、同年12月に公民館東分館の業務委託に当たっての留意事項、問題事項を提示する形で答申を行い、市は本答申の提言等に基づき、平成27（2015）年8月から公民館東分館の業務をNPO法人に委託している。この市民協働による運営は、様々な市民ニーズに対応し、柔軟性に富んだきめ細かな事業や市民サービスを提供しており、高い評価を得ている。

一方で、市は令和3（2021）年3月に小金井市公民館中長期計画（以下「公民館中長期計画」という。）を策定し、公民館緑分館（以下「緑分館」という。）の業務委託化に関して、緑分館の歴史や特徴等を踏まえること、経験や専門性を持った公民館職員の継続的配置を確保し、公民館全体で統一性を持った運営が行えるよう努めること、課題として宿泊設備の利用率向上と野外調理場の存続の検討を示している。

また、市は、令和4（2022）年8月に市の経営課題の解決に向けて行財政改革大綱「小金井市行財政改革2025」を策定しており、その重点取組の一つである「公民連携・アウトソーシングの推進」の個別取組に、公民館緑分館の業務委託化を位置付け、市民サービスの質の向上を民間活力による専門性と民間独自事業により実現することとしている。

このような中、令和4（2022）年11月、私たち第36期公民館運営審議会は、公民館長より、小金井市行財政改革2025及び小金井市公民館中長期計画に基づく公民館緑分館の委託化について諮問がなされた。私たちは、緑分館の現状を理解し

ながら、「公民館緑分館の委託化を進めるに当たり、どのような配慮等を必要とするか」をテーマに据え、協議を行った結果を、ここに答申する。

2 緑分館の現状等

(1) 緑分館の建設の経過

緑センター※に隣接する浴恩館公園敷地内には、現在、小金井市文化財センターが設置されている。この建物は、昭和5(1930)年に現在地に移築されて以降、青年団講習所として使われた由緒ある建物「浴恩館」を改修した博物館施設であり、当時の青年講習所の所長であった小説家・社会教育家「下村湖人」が講習生と語り、小説「次郎物語」の構想を練った施設としても有名である。

昭和48(1973)年には、市が(財)日本青年館から浴恩館を買い取り、小金井市青少年センター(以下「青少年センター」という。)を開館した。青少年センターは、野外調理場や体育館、テニスコート場を備え、また、恵まれた自然の中で、日ごろ体験できない宿泊キャンプ、自炊、学習活動等が行われた。

しかしながら、浴恩館公園の都市公園整備や建物の老朽化等により、浴恩館は小金井市文化財センターに用途を転用し、浴恩館公園に隣接する現在地に青少年センターの機能を継承する形で、平成3(1991)年10月に緑センターが建設され、現在に至る。

※ 緑センター：図書館緑分室、公民館緑分館、高齢者いこいの部屋等が配置される複合施設の総称

(2) 緑分館の特徴的な設備、機能の現状

ア 宿泊設備

緑分館には宿泊設備として、緑センター2階にシャワールーム、研修室A・B・Cを備えている。年間の利用件数は6件から20件程度となっている。

令和2(2020)年度から新型コロナウイルス感染対策として、宿泊事業を中止しており、社会情勢等から適切なタイミングを捉えて事業を再開するために、使用方法、使用人数、食事等のルールなどを見直す必要がある。

イ 野外調理場

野外調理場は浴恩館公園敷地内にあり、野外炊事用かまど、炊事台及び水道

を備え、青少年の野外炊事実習や地域のイベントなどに活用されている。現在は、令和3(2021)年4月から新型コロナ感染対策として、使用を中止している。また、周辺の宅地化により環境が大きく変化しており、野外調理に伴う煙による臭気や防火上の問題が浮上しており、現在、近隣住民と利用団体等のご意見を伺いながら方向性を検討している。

ウ テニスコート場

浴恩館公園敷地内には、テニスコート場があり、多くの公民館登録団体に使用されており、概ね2年に1度、テニスコート場の整備を実施している。

エ 高齢者いこいの部屋

緑センター1階に集会室A・Bがあり、高齢者団体等が優先的に使用し、空いている時間帯は公民館登録団体が使用している。

オ レクリエーション室

市公民館の中で、最も大きい部屋であり、天井も高く、壁に鏡が設置されている。ダンスやコンサート等、広く活用されている。

カ 視聴覚室

防音扉や電子ピアノ等を設置しており、音楽活動等に使用されている。

(3) 緑分館の施設、備品について

令和3(2021)年3月に策定した「小金井市社会教育関係施設 個別施設計画」においては、天井等の雨漏り、外壁等の劣化・損傷、電気設備・機械設備の劣化等が指摘されており、同計画では令和9(2027)年度、令和10(2028)年度に長寿命化改修のロードマップが示されている。現状では、事務室のほか、各諸室及びロビー等の天井、壁、内部建具、床等に損傷が見られ、また、ロビーや諸室にある備品等についても使用に耐えないものも多数散見される。

(4) 緑分館で実施している事業

緑分館では、他の公民館4館(本館・貫井南分館・東分館・貫井北分館)と同様に、企画実行委員とともに高齢者学級(みどり・朴の樹学級)、成人教育事業(市民講座、成人学校、成人大学講座)、文化活動事業(音楽鑑賞のつどい)を主催しており、特色のある講座として、少年教育事業(子ども体験講座)、青年教育事業(国際交流イベント、生活日本語教室)、成人教育事業(陶芸入門教室)がある。市民との

協働により実施する市民がつくる自主講座は、令和3（2021）年度から緑分館において、実施しており、従来の公民館活動の分野を広げ、地域や生活の課題について、市民自身の手で講座の企画及び運営を行っている。

3 答申

(1) 緑分館の施設、備品の老朽化について

令和5（2023）年1月、第36期第11回公民館運営審議会にて施設等見学を行い、顕著な老朽化の状況を確認した。については、業務委託開始までに、公民館運営を行う上で必要最低限な修繕として、以下の対応をお願いしたい。メンテナンスの難しいとされる高所の照明及び照明器具のLED化、空調設備の修繕、施設全体の安全対策の徹底、使用不可備品類等の撤去

(2) 宿泊設備、野外調理場について

青少年センターの継承及び上述2(2)の現状を踏まえ、行政として事業再開に向けた方向性を適切に示していただきたい。

(3) 施設利用者が利用できるWi-Fi環境について

公民館中長期計画の上位計画である小金井市生涯学習推進計画は「ICTを活用した生涯学習の環境づくり」を掲げていることから緑分館の施設利用者が利用できるよう、通信環境の整備の早期検討を要望する。

(4) 緑分館の方向性について

ア 地域拠点（ひろば）の整備

公民館中長期計画は、公民館の将来像を「つどい、学び、つながる、地域の拠点（ひろば）」と定めており、緑分館は地域拠点として、多世代・多様な地域住民等が生涯を通じて学ぶことができ、気軽に集える空間へと整備していくことが肝要である。特に1階と2階のロビースペースは、十分に活用されているとは言い難く、多世代の利用者が利用可能なスペースとなるよう、優先的な整備を実施すること。

イ 既存事業の継承と特色のある講座の実施について

令和5年（2023）年度まで緑分館で実施した事業及び上述2(4)の講座について、

業務委託開始後も可能な範囲で継承されるよう、受託者への引継ぎをお願いする。併せて、周辺の地域コミュニティ・産学官民との連携及び浴恩館公園等との一体的活用が図られるような特色のある講座を実施すること、青少年センターを前身とする緑分館には青年から成人の移行期の若者への社会教育振興事業に幅広く取り組むことを求める。

ウ 安定的な公民館運営の確保

社会教育振興を担う受託者の選考に当たっては、事業者の経験や実績、専門性のある人材の確保と安定的な運営等も含めて総合的に判断する必要がある。緑分館委託後においても、他の公民館4館と情報共有を図るとともに、市においては各館が相互に連携して市公民館全体で統一性のある体制を構築していただきたい。

4 今後に向けた取組み

緑分館の委託化について熱心な議論が行われた中で、今後の大きな課題として、緑センター周辺の公共施設等の関係部署との連携強化を求める意見や、新たに駐車場の設置を求める意見もあった。これは、公民館の活動・サービスの充実が、市民の利用機会の増進や公民館事業の支えとなって、更なる活動、サービス充実の可能性が広がるとの思いであり、市においては、公民館運営審議会の意見を踏まえ計画的で効率的な運営を目指すことを要望する。また、公民館運営審議会においては、引き続き、公民館と地域住民を結ぶパイプ役として、地域住民の声を各種事業に反映していくことを申し添える。

5 結びに

公民館緑分館の委託化に当たり、継続して市が行うべきこと、民間の力による専門性の向上など、双方の役割を明確にし、それぞれの能力を最大限発揮していくことが求められる。市と民間が連携して、社会状況の変化や市民ニーズの多様化に的確に対応することで公民館活動のより一層の深化を期待して、答申する。

教育委員会の今後の日程

令和5年5月8日

会議名	日時	場所
東京都教育施策連絡協議会	4月21日(金) 15時 ～ 5月31日(水) 17時	オンデマンド配信
令和5年 第6回教育委員会定例会	5月23日(火) 午後1時30分	801会議室
関東甲信越静市町村教育委員会連合会 総会及び研修会(埼玉大会)	5月26日(金) 午後1時	埼玉県加須市 加須文化・学習センター
市町村教育委員研究協議会	前期 ① 6月29日(木) ② 9月7日(木) 後期 ③ 12月21日(木) ④ 2月8日(木)	オンライン開催
令和5年 第7回教育委員会定例会	7月11日(火) 午後1時30分	801会議室
令和5年 第8回教育委員会定例会	7月25日(火) 午後1時30分	第一会議室